



「科学へのとびら」に参加しました

「科学へのとびら」は、佐賀大学と佐賀県教育委員会の主催による高大連携活動の一環としての取組です。6月23日(日)に、今年度最初の「科学へのとびら」が佐賀大学で開催されました。

2年生は、リレー講義「様々な研究分野」を受講して、佐賀大学の先生や大学院生が行っている研究の例を学習し、いろいろな分野の研究活動について視野を広げる機会を得ました。

3年生は、講義「求められる人材像と振り返りの意義」を受講して、社会・経済の変化を背景としたこれから求められる人材像について学習しました。また、構成主義・社会構成主義的な知識観や学習観に立って、振り返りの意義を学習し、「科学へのとびら」についてリフレクションを行いました。修了式では、7回すべてに参加した3年生(本校は27人)に修了証が授与されました。本校は、実松若那さんが代表で修了証を受けました。「科学へのとびら」で学んだ考え方等を今後生かしてほしいと思います。



「リケジョプラットフォーム in SAGA『テクノロジーを体感しよう』」に参加しました

6月25日(火)に、本校を会場にして、佐賀大学ダイバーシティ推進室主催による高校生対象の講座が開催されました。高校生26人が参加しました。講座では、佐賀大学ダイバーシティ推進室 荒木薫先生による「ダイバーシティ入門講義」、大学生による講話、佐賀大学理工学部 三沢達也先生による実験体験会「雷放電を利用して電磁波通信機を作ろう!」等がありました。



「リサーチセミナー」を開催しました

6月29日(土)に、理数科1年生を対象に、第2回「リサーチセミナー」を実施しました。佐賀大学 理工学部 理工学科 電気電子工学部門 和久屋寛先生に、「人工知能を取り巻く過去・現在・未来について ~2019年夏に考える~」と題して、遺伝的アルゴリズムを用いた鹿島市における避難経路探索の事例紹介など、研究課題の見出し方や解決方法について話していただきました。



生徒の感想

- 「先生のA1の研究は「災害が起きた時にどうすれば早く安全に避難できるか」という「今」の日本で解決していくべき課題に貢献していると思う。自分も課題研究では社会への貢献と真理の探究を念頭に置いて課題設定をしたい。そのためにも、社会の情勢、状況や社会のニーズをしっかりとニュースなどで感じて把握しておこうと思う。」
- 「研究の成果を応用するには、実際に現場を見て本当にその考え方でよいのか、何か問題が起きないのか、確かめないといけないと思いました。」
- 「研究すればするほど多くの課題が出てきて、少しずつ研究を進めることでよい研究になるのだと思った。自分達も試行錯誤しながら研究を進めていきたいと思った。」
- 「Plan、Do、Check、ActionのPDCAサイクルは実験や調査の場面でも大事なことだと思うので、SSHの授業などで意識して取り組んでいきたいです。」